

平成30年12月17日・19日・21日

病院向け説明会（於：ウエルとばた）

事業所向け説明会（於：北九州市立商工貿易会館／コムシティ）

北九州医療・介護連携プロジェクト会議
「医療・介護連携に関する調査結果（速報）」について

北九州市役所
保健福祉局 地域医療課

今後、北九州では「協調」のレベルを目指していきたいと考えています

次元1. 連携 (Linkage)

- 必要なときに、必要なサービスにつなぐというつながり。
- 全体の調整機能には至らない、個別の仕組み。

(例) 医療機関同士の紹介状

次元2. 協調 (Coordination)

- 組織間の連携がより強く、また構造化されている状態。
- 利用者からみて、多様なサービスが切れ目なく提供されているように見える。

(例) ??

次元3. 統合 (Full integration)

- 看護・介護・通い・訪問・泊まり、ケアマネジメントなど、必要なサービス資源がひとつの事業体のもので提供。

(例) 看護小規模多機能型居宅介護

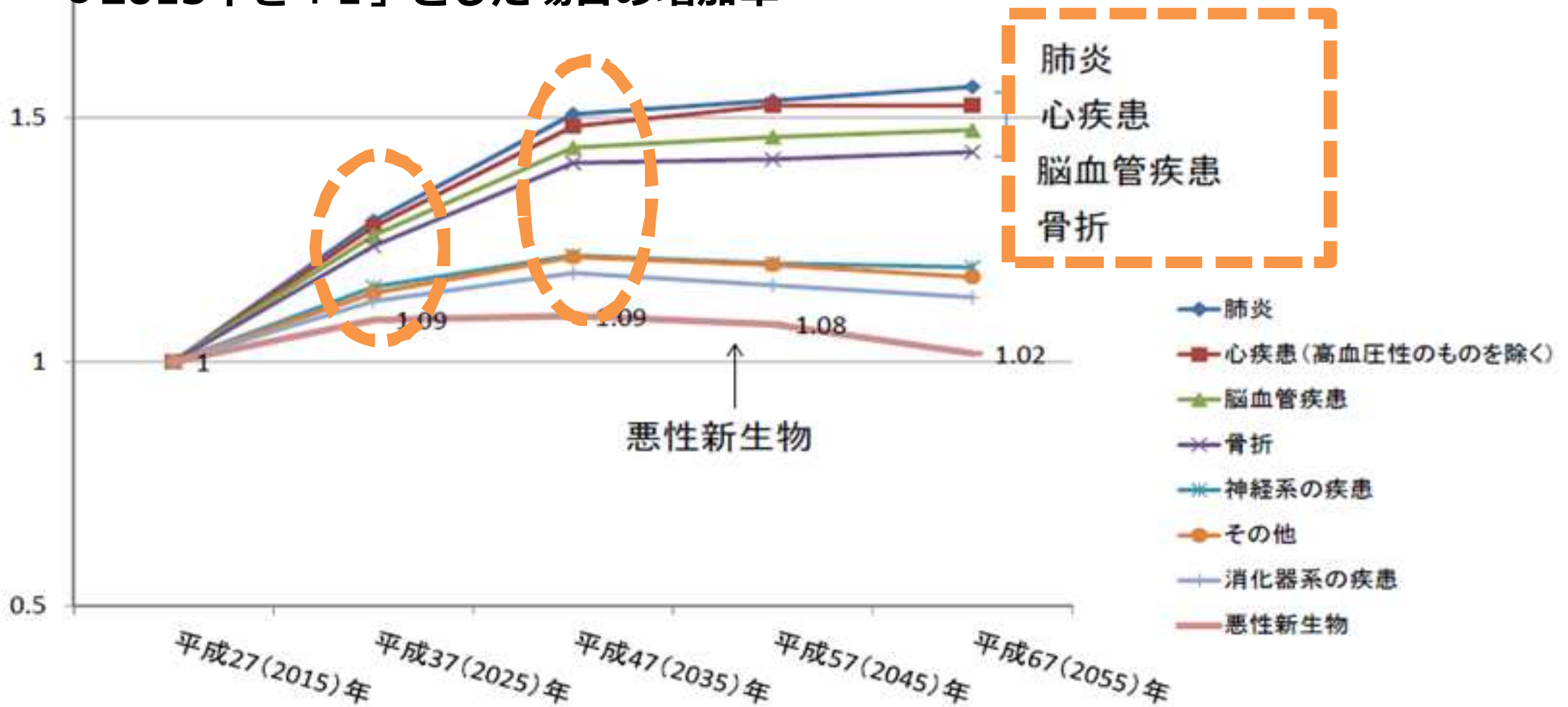
「連携から協調へ」

「後退戦」という考え方

2025年までと、2025年から（その1）

○2040年に向けて、肺炎・心疾患・脳血管疾患・骨折が増える。

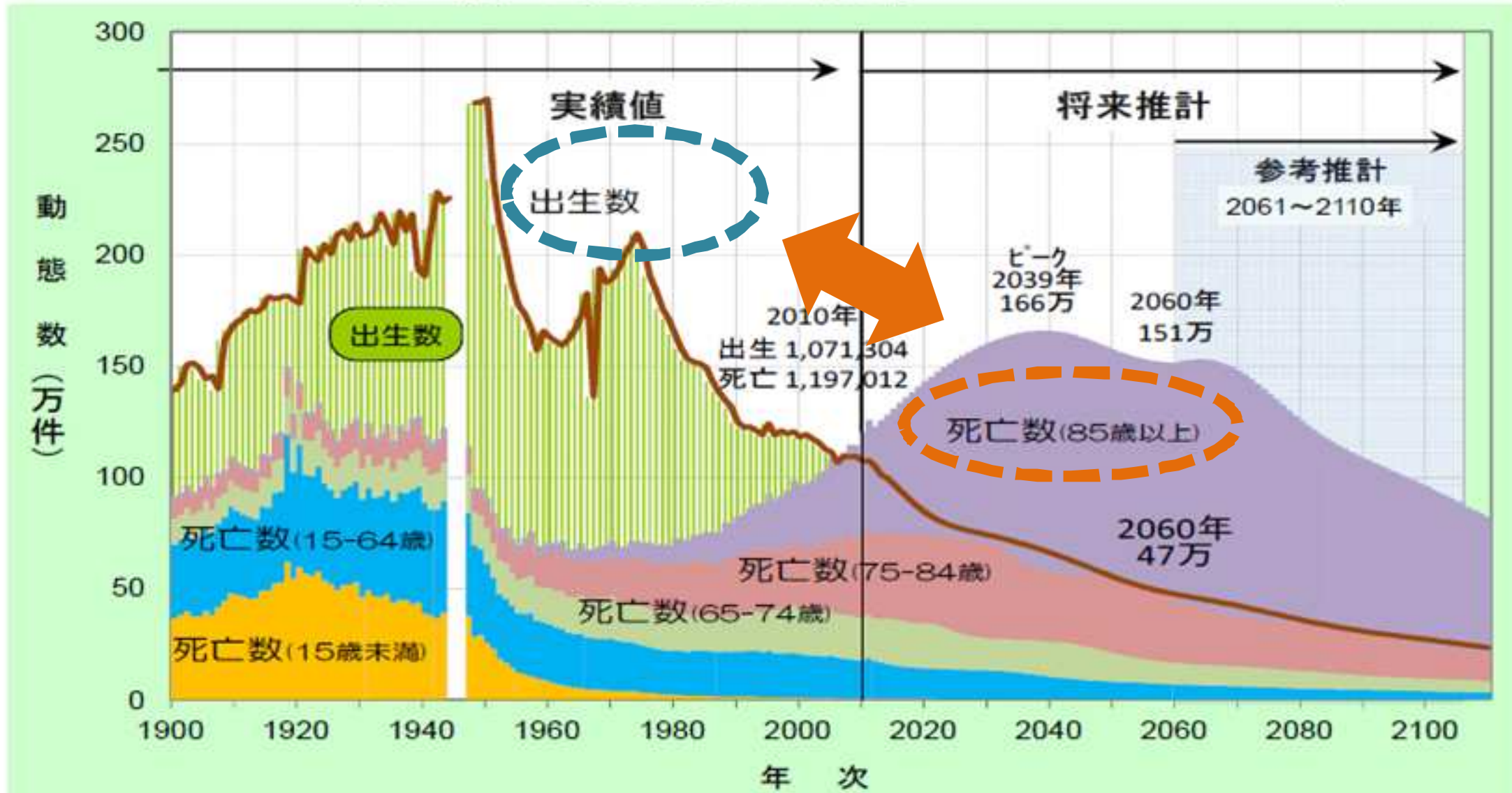
●2015年を「1」とした場合の増加率



2025年までと、2025年から（その2）

○2040年に向けて団塊の世代が85歳になり、中重度者・看取りが急増。

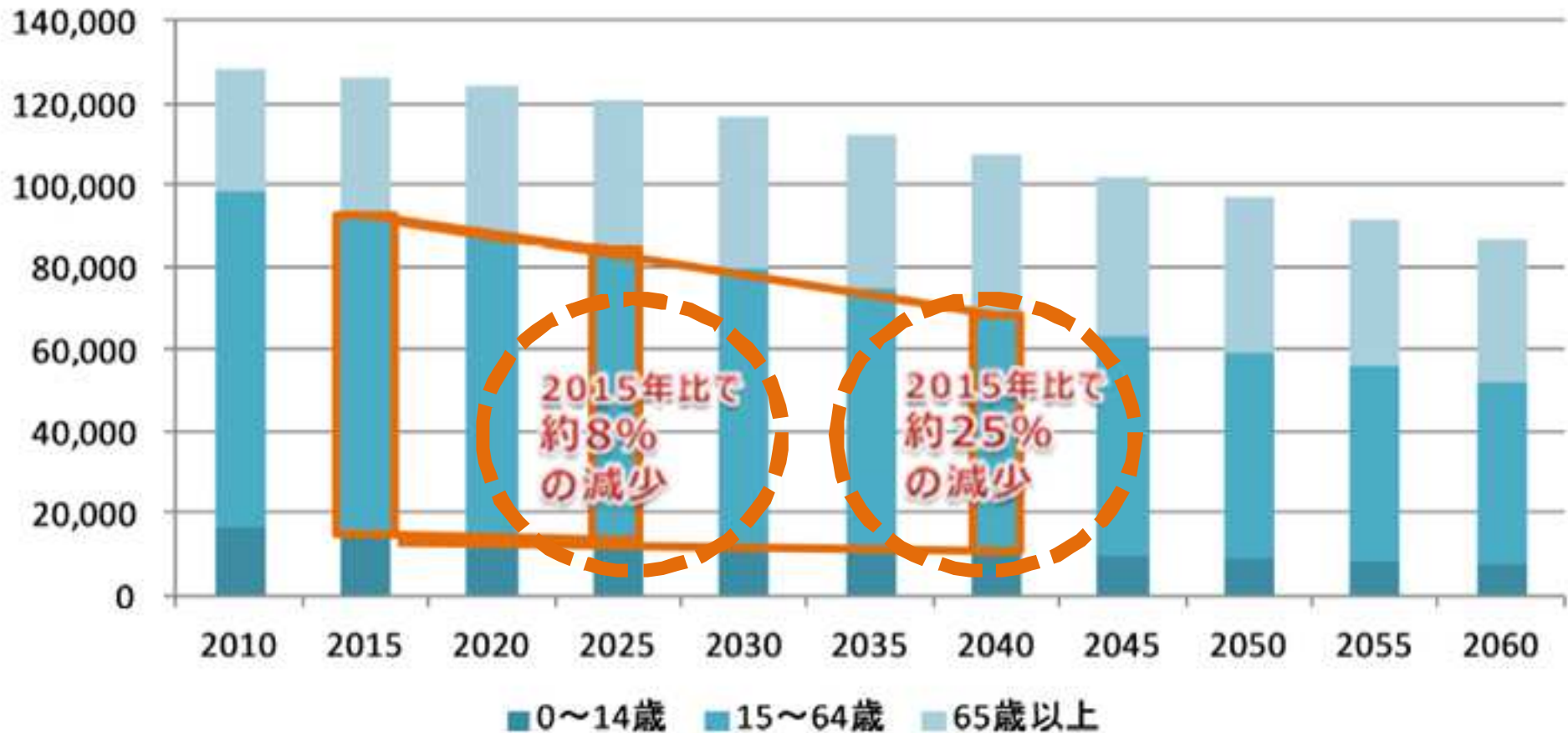
出生数 と死亡数の推移：1900～2110年



2025年までと、2025年から（その3）

- 今後、従来の水準での人材の確保は困難（量的な対応はできない）。
- 現在の人材でいかに効果・効率の高い対応ができるかが課題。

<減少しつづける生産年齢人口>



資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）

○地域包括ケアシステムの時代は、**「後退戦」**の時代

○「どうやって勝つか」ではなく、
「どうやって負け幅を小さくするか」という戦い方
にならざるを得ない

○「勝ち戦」と「後退戦」は、**「戦い方」**が違う

○**「後退戦」**は、**「協調」**がないと戦えない

今後、北九州では「協調」のレベルを目指していきたいと考えています

再掲

次元1. 連携 (Linkage)

- 必要なときに、必要なサービスにつなぐというつながり。
- 全体の調整機能には至らない、個別の仕組み。

(例) 医療機関同士の紹介状

次元2. 協調 (Coordination)

- 組織間の連携がより強く、また構造化されている状態。
- 利用者からみて、多様なサービスが切れ目なく提供されているように見える。

(例) ??

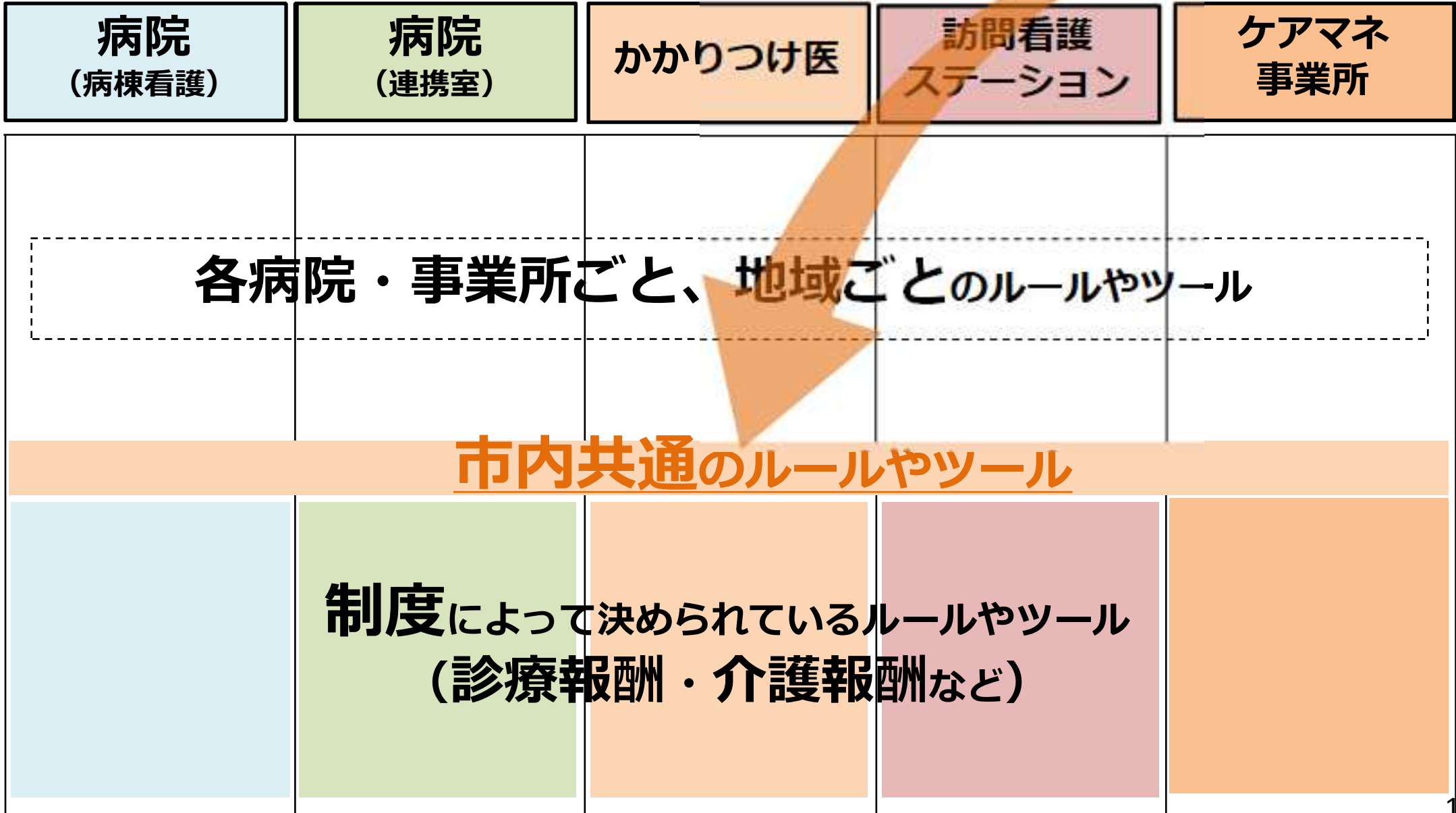
次元3. 統合 (Full integration)

- 看護・介護・通い・訪問・泊まり、ケアマネジメントなど、必要なサービス資源がひとつの事業体のもので提供。

(例) 看護小規模多機能型居宅介護

北九州医療・介護連携プロジェクト会議について

市内全体が効率よくつながるためには、**ココ**が必要



「北九州医療・介護連携プロジェクト会議」の立ち上げ

患者・利用者や、その家族を中心として、切れ目のない医療・介護等の支援を提供するため、市内の医療・介護等の関係機関が実施すべき取組や、その普及・徹底方策の策定、それらの実施状況の進捗管理、効果検証、見直しを行うため、「北九州医療・介護連携プロジェクト会議」を立ち上げ（平成30年8月）

構成員

NO	氏名	団体（所属）	役職
1	安藤 文彦	公益社団法人北九州市医師会	専務理事
2	犬塚 寛	公益社団法人福岡県介護老人保健施設協会 北九州ブロック	
3	加藤 ひとみ	小倉医師会訪問看護ステーション	管理者
4	閑地 敦子	公益社団法人福岡県看護協会	北九州 地区長
5	佐藤 千穂	公益社団法人北九州市薬剤師会	理事
6	重藤 弘之	一般社団法人北九州市歯科医師会	理事
7	白木 裕子	NPO法人ケアマネット21	代表
8	白土 健司	小倉在宅医療・介護連携支援センター	管理者
9	曾我 満美	公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会	副会長
10	玉野 和男	公益社団法人福岡県作業療法協会	理事
11	坪根 雅子	公益社団法人福岡県介護支援専門員協会	常任理事
12	藤好 正和	一般社団法人福岡県医療ソーシャルワーカー協会	理事
13	山内 康太	公益社団法人福岡県理学療法士会	理事

(オブザーバー)

	権頭 聖	公益社団法人北九州市医師会	理事
--	------	---------------	----



検索

北九州医療・介護連携プロジェクト会議

(資料・調査など、活動内容は公開しています)

プロジェクト会議で取り組むこと

問題意識

- 地域で「連携の課題」を言い放し、ぶつける先がない
- 「連携の課題」が数字で見えていない

- 「連携の課題」を解決するルール・ツール、取組を作れていない

- ルール・ツール、取組を作っても普及しない、徹底されない

- 取組が長く続かない、見直しができていない、どこまで進んだかわからない

必要な段取り

- 連携の「場面」を分解する
- 「場面」ごとの課題を数字で明らかにする

- ルール・ツールのイメージを具体化する**

- 各医療機関・事業所へ説明する
- ワークフローに組み込んでもらう
- 「協力医療機関・事業所一覧」を作る
- 各地域・団体へ共通の研修をお願いする**

- ルール・ツールごとに進捗管理・効果検証を行う**
- 必要に応じて見直しを行う**

目指したい方向性

- 地域や団体の研修等で、「連携の課題」を議論・集約できる
- 「連携の課題」が数字で見える

- 皆で取り組むルール・ツール、取組を「地域合意」にできる

- ルール・ツール、取組を実施する「協力医療機関・事業所」が見える
- 地域や団体の研修等で、ルール・ツール、取組を普及・徹底できる

- 取組の効果検証や見直しをする
- 連携の進み具合が数字で見える

今年度のスケジュール（イメージ）

第1回プロジェクト会議資料
（30年8月17日）
※一部簡略化

時期	プロジェクト会議で取り組むこと	
平成30年 6～8月	【立ち上げ期】 ○各団体への説明、委員選出依頼 ○プロジェクト会議の立ち上げ（8月17日） ○スケジュール・作業手順の確認	
夏	【仮説の設定、裏付け期】 ○ 連携の課題の定量的・客観的把握（調査） ※ 全体の課題を把握（調査）し、その後、場面ごとの課題の把握（調査）をしていく	【協力者の開拓】 ○市内の関係者（医療・介護関係団体、個別の医療機関・事業所等）へ、プロジェクト会議の 周知
秋	【調整期】 ○市内で取り組むべきルール・ツール、取組の候補設定	○市内の関係者（医療・介護関係団体、個別の医療機関・事業所等）の 協力意向等のリスト化
冬	【具体化期】 ○ 市内で取り組むべきルール・ツールの策定・合意 ○普及・徹底の方策（医療・介護関係団体、地域の研修への組み込み等）	
平成31年度以降	【モデル実施期】 ○市内で モデル実施、効果の検証	

P15へ

P24へ

それでは「地域」はどう思ってるのか？

「医療・介護連携に関する調査結果（速報・概要）」

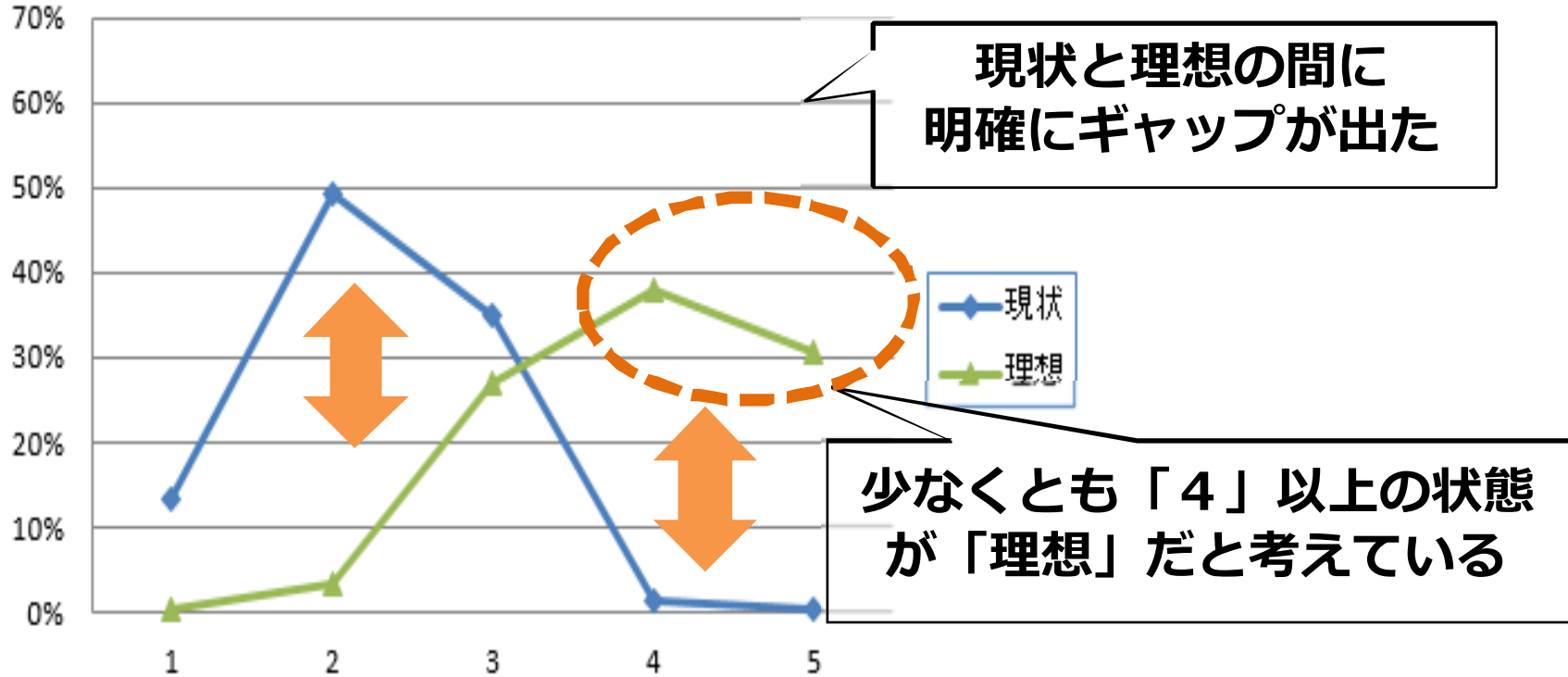
※病院・診療所・訪問看護ST・ケアマネ事業所の専門職約1000人より回収しました
(回収率80%)。

※詳細な結果は、巻末に掲載してありますので、ご自由にご活用ください
(ホームページにも掲載してあります)。

Q 患者・利用者情報の提供について「現状」と「理想」どちらか (1つ選択)

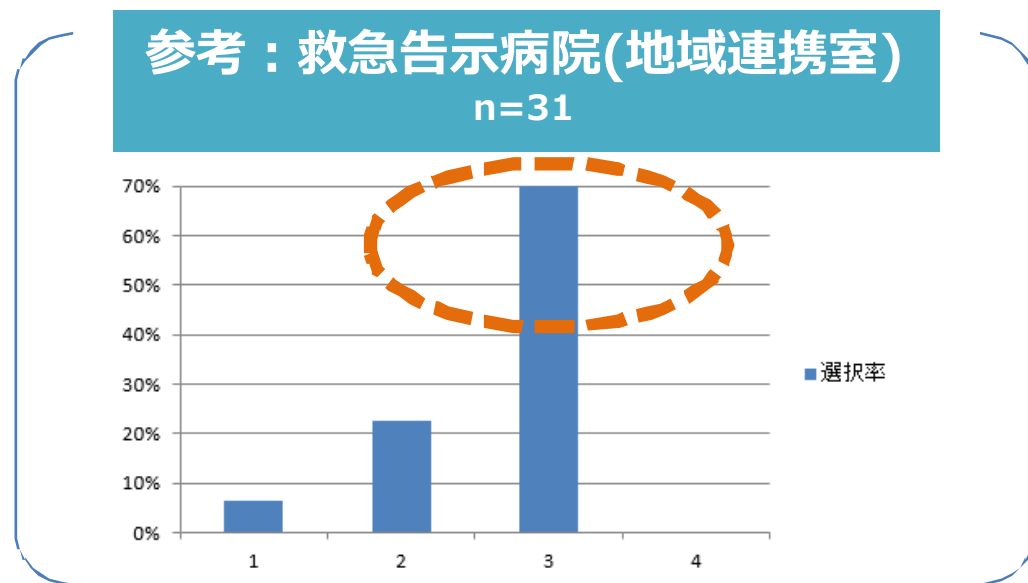
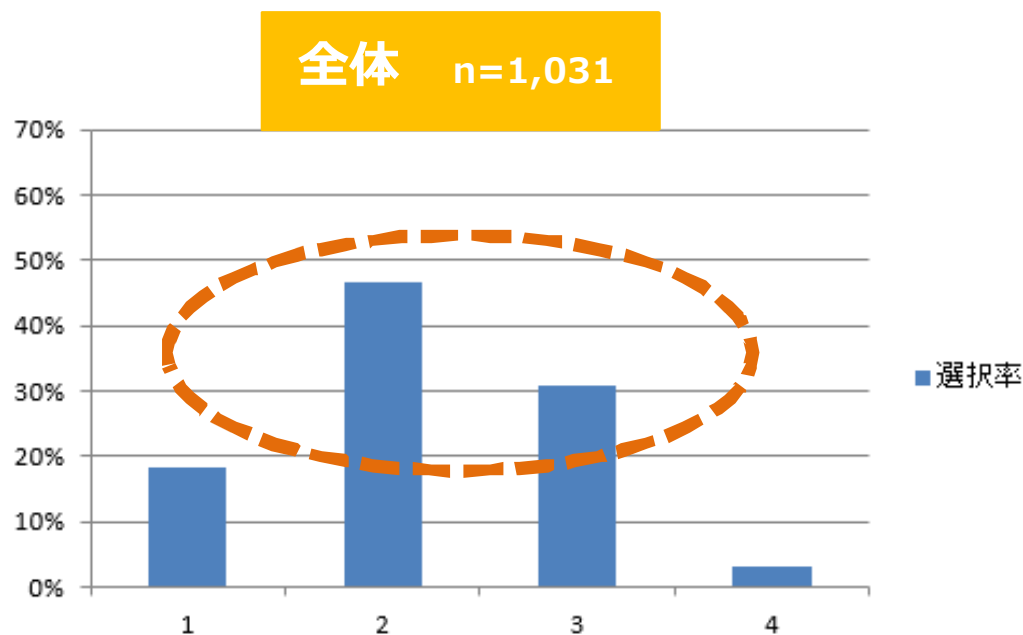
- 1 問い合わせがあったときに個別に対応
- 2 それぞれの医療機関・事業所が必要と感じたときに対応
- 3 医療機関・事業所をこえた地域のルール・ツールにより対応
- 4 さらに、体系的な研修会が行われ、地域のルール・ツールが学べて定着し、効果（連携がよくなっているか）が数字でわかる
- 5 さらに、地域の新たな課題に基づいて、ルール・ツールを見直せる

全体 n=1,031



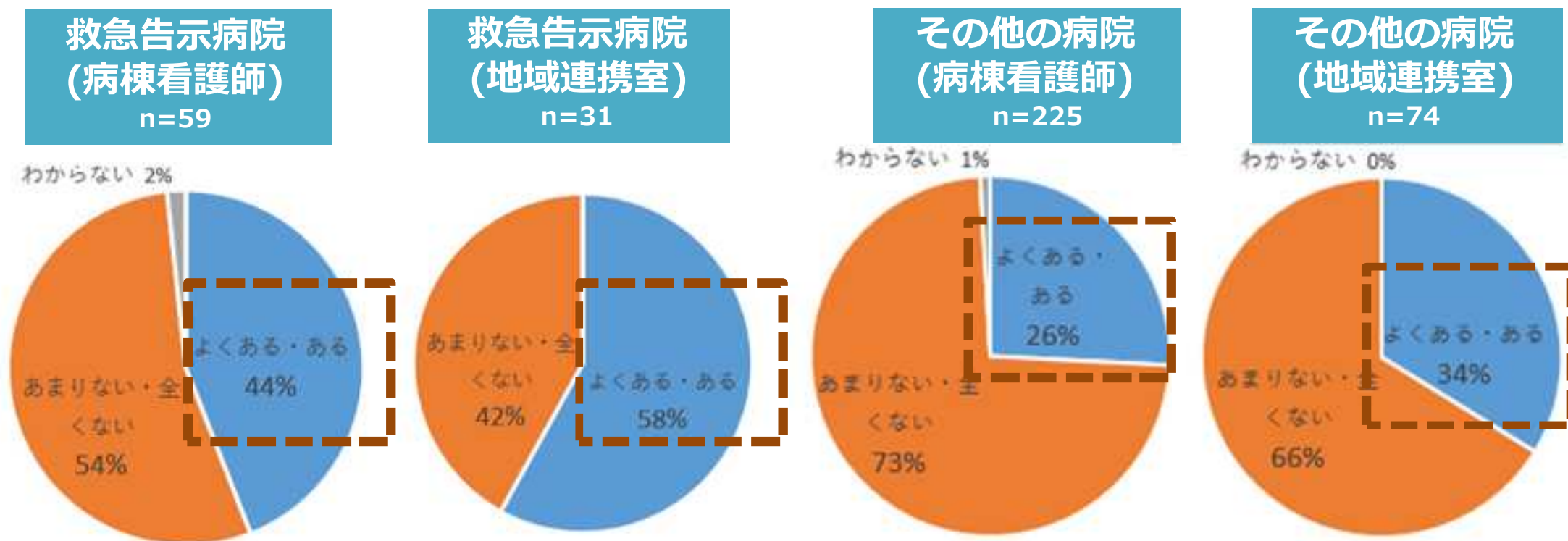
Q 情報伝達がうまくいかないことによって、支障が生じているか? (1つ選択)

- 1 悪影響や業務上の支障は生じていない
- 2 職員の努力により、患者への支援・療養に支障は出ていない
- 3 職員が努力しているが、患者への支援・療養にやや支障が出ている
- 4 職員が努力しているが、患者への支援・療養に支障が出ている



すべての職種で、「職員の業務」が「患者への支援」のいずれかに負担や支障が出ていると答えた。

Q 新しく患者・利用者を引き受けるときに、今まで患者に関わっていた医療機関や事業所がわからない（情報が無い）ことがある



患者の情報の取得に（しかも基本的な情報すら）苦勞している

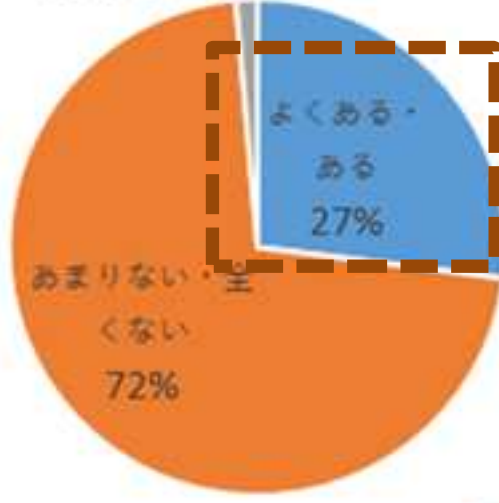
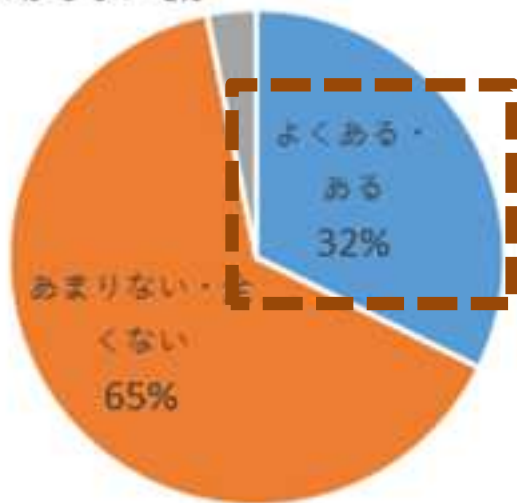
Q 新しく患者・利用者を引き受ける
 とき、医療機関や事業所から
 適切に情報（内容・タイミング）
 が来ないことがある

救急告示病院
 (地域連携室)
 n=31

その他の病院
 (地域連携室)
 n=74

わからない 3%

わからない 1%



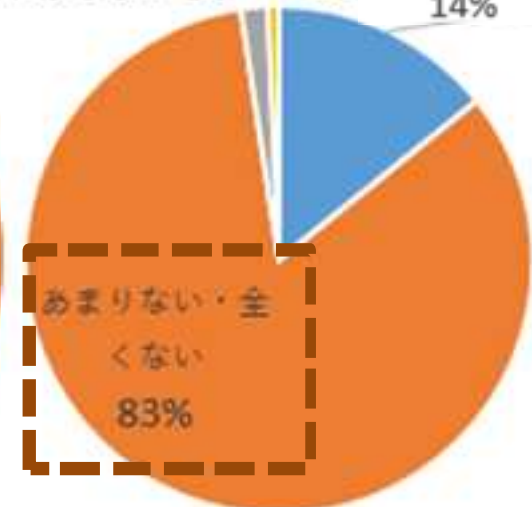
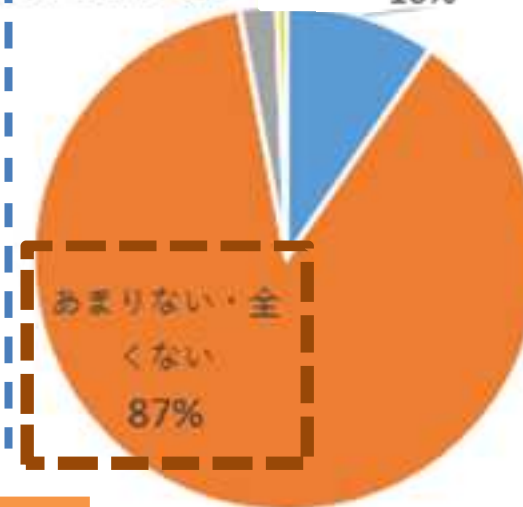
Q 患者・利用者を次の医療機関や
 事業所に引き継ぐとき
情報を渡す内容・タイミング
 がわからないことがある

訪問看護
 ステーション
 n=167

ケアマネ
 事業所
 n=295

わからない 2%

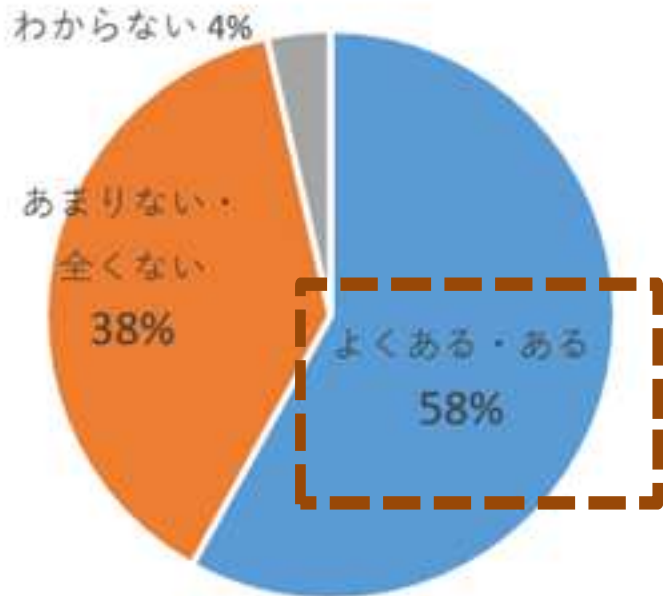
わからない 2%



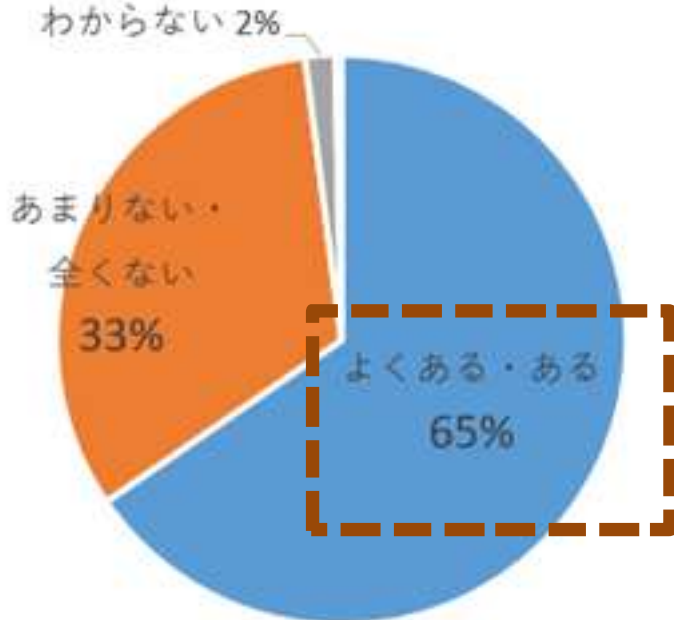
患者の情報の取得（欲しい情報やタイミング）で病院と在宅関係者
 の間でギャップがある

Q 各医療機関や事業所の窓口がわからない、また医療機関や事業所でルールに差があり、それを把握したり合わせたりすることが大変だと感じる

訪問看護ステーション
n=167



ケアマネ事業所
n=295



各医療機関・事業所の窓口や取扱いのバラバラさに困っている

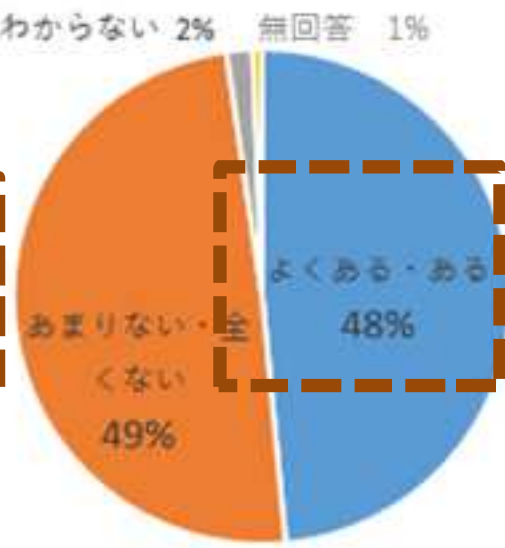
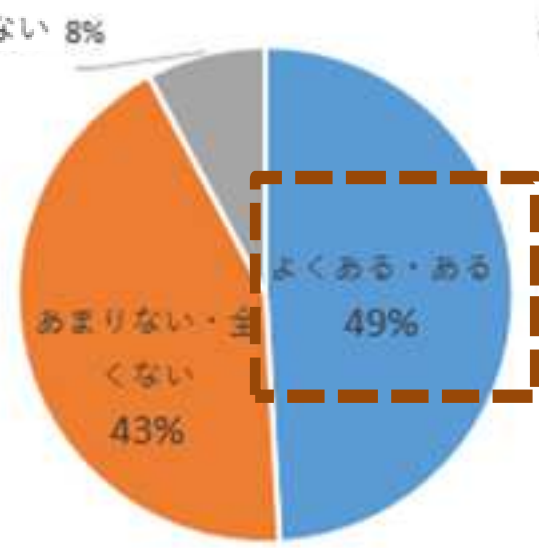
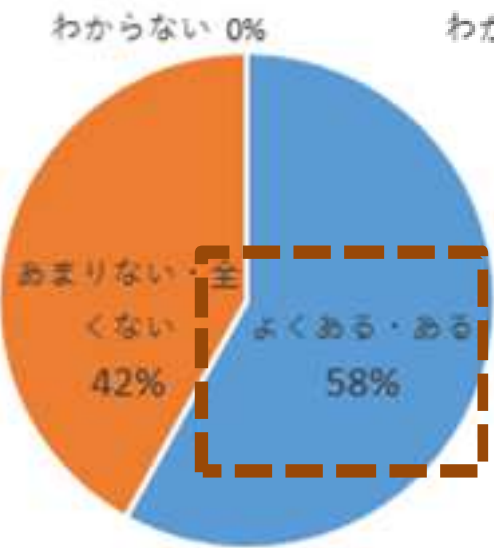
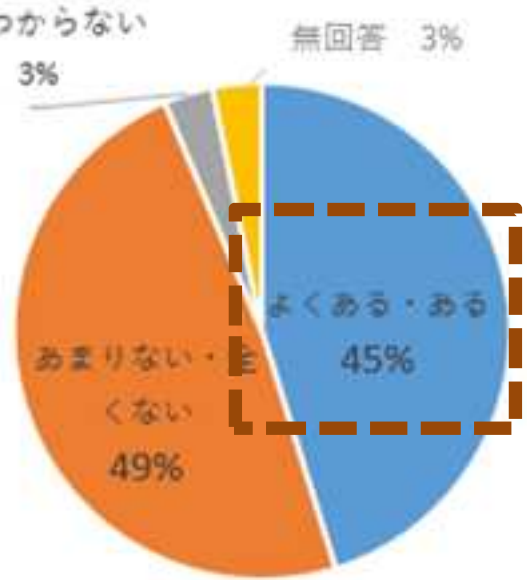
Q 医療機関や事業所で説明がバラバラで、家族が医療・介護の流れを理解しておらず、情報共有や入退院・転院がスムーズにいかない

救急告示病院
(地域連携室)
n=31

その他の病院
(地域連携室)
n=74

訪問看護
ステーション
n=167

ケアマネ事業所
n=295



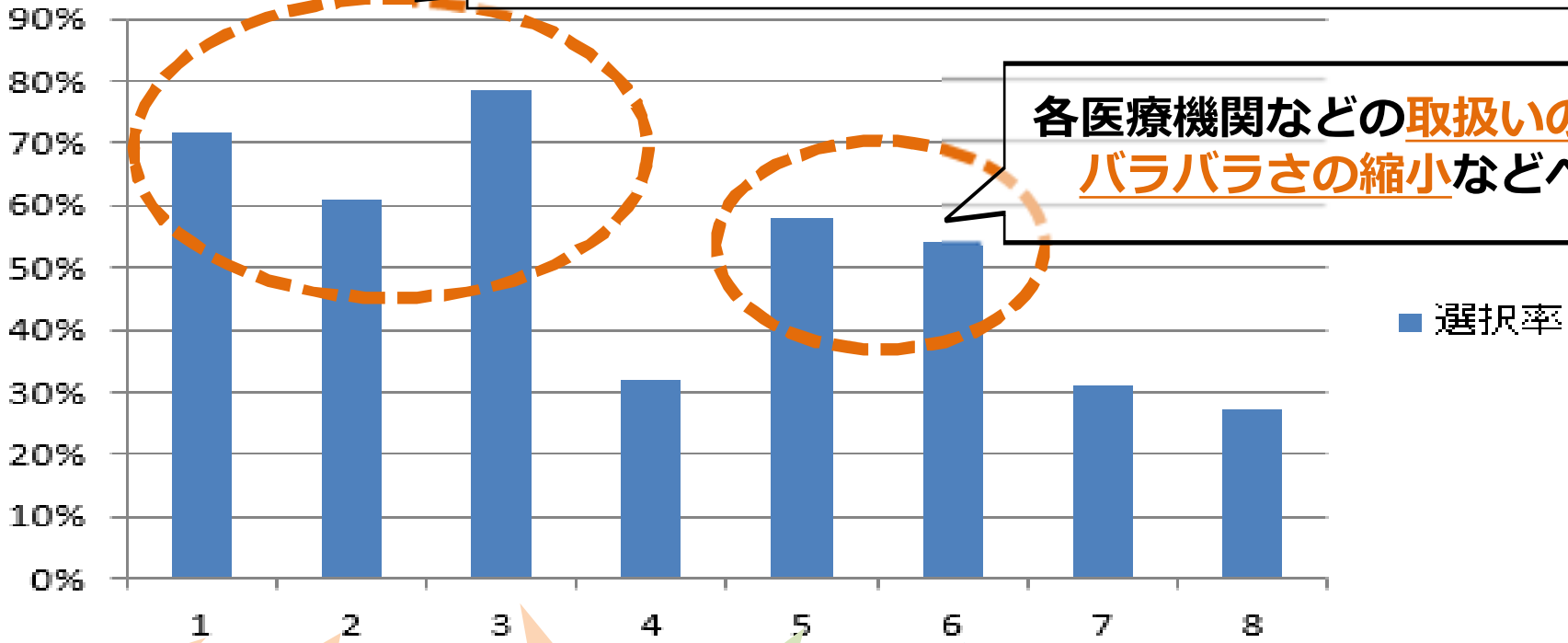
各医療機関・事業所の患者対応のバラバラさに困っている

Q 市内全体で効率よく患者・利用者情報が提供・共有される仕組みを作るためには、何が必要か？ (5つまで選択)

全体 n=1,031

患者・利用者情報の取得をスムーズにしたいと思っている

各医療機関などの取扱いの「見える化」やバラバラさの縮小などへの期待もある



かかりつけ医やケアマネの連絡先等が書かれた**共通カード**
(患者・利用者が所持)

既往や家族情報、医療・介護の経過等を書く**共通ファイル**
(患者・利用者が所持)

医療機関や介護事業所の間で受け渡しする**共通の情報共有シート**

各機関の入退院時の**窓口連絡先・独自ルール等の一覧**

入退院時等に、どの医療機関や事業所でも使える患者・利用者への**説明用パンフレット**

各地域・病院にも回っています。

※職能団体や地域の研修会からは「話を聞きたい」ということで、説明や講演に伺っています（こちらから説明の時間をもらったものもあります）。

※また、個別の医療機関（まずは公的医療機関）にも説明や講演に伺っています。

「北九州医療・介護連携プロジェクト会議」立上げ・活動の主な説明状況【未定稿】

(人数は※印以外は累計。また研修会などは概ねの人数で表記しているものもある。)

分類	機関名称・研修会名	説明・講演・周知日	人数	主な対象職種
公的医療機関等	門司メディカルセンター、市立門司病院 小倉記念病院、国立小倉医療センター 九州労災病院、健和会大手町病院 市立医療センター、新小倉病院、北九州総合病院 戸畑共立病院、製鉄記念八幡病院 済生会八幡総合病院、市立八幡病院 産業医科大学病院、JCHO九州病院のうち12病院 (残り3病院はアポ取り中)	18/9/26～	47	院長、看護部長、 事務長、地域連携室
	市立八幡病院 看護師長会研修 市立医療センター 看護師長会研修	18/10/2、18/10/23	50	看護師
機 行 関 政	保健福祉局幹部会	18/8/30	30	局幹部(課長以上)
	区(地域包括C等)	18/9/5、18/9/10、18/9/28、18/10/24	31(※)	保健福祉課長・担当課長、地域保健係長、地域包括C係長
多 職 種	在宅医療・介護連携支援センター職員連絡会	18/8/22、18/9/18、18/11/27	25	連携C職員、市医師会
	小倉在宅医療介護従事者研修会、多職種連携研修会	18/8/25、18/10/17、18/11/29	290	多職種
	若松区多職種連携研修会	18/9/7	123	多職種
	門司・小倉・戸畑合同介護従事者研修会	18/12/5	200	多職種
	八幡多職種連携研修会、介護従事者研修会	18/10/19、18/12/5	350	多職種
	門司区多職種連携研修会	18/11/7	132	多職種
	よりよい地域ケアを目指す会 設立総会	18/10/13	50	地域連携室、ケアマネ
医 療 関 係	北九州市薬剤師会 理事会	18/10/9	20	薬剤師
	福岡県訪問看護ステーション連絡会(八幡)	18/9/26	30	看護師
	OT協会北九州ブロック地域ケア会議に関する研修会	18/9/2	23	作業療法士
	福岡県理学療法士会 管理者研修会	18/9/15	30	理学療法士
	北九州病院グループ リハビリテーション部門講演会	18/11/10	226	リハ職
	北九州市医師会 病院交流会	18/11/26	139	院長、看護部長、地域連携室
	北九州看護部長協議会	18/12/5	57	看護部長
介 護 関 係	北九州高齢者福祉事業協会 高福協施設長会議	18/8/28、18/12/18	120	施設長
	地域連携交流会	18/9/14	50	ケアマネ・高齢者施設
	北九州ブロック介護老人保健施設協会	18/9/18、18/10/20、18/11/9	670	施設長、SW、事務員
	福岡県介護支援専門員協会	18/10/6、18/10/11、18/10/27	100	ケアマネ
	ケアマネのつどい講演会	18/11/5	20	ケアマネ・SW
	ケアマネット21 研修会	18/8/18、18/11/17	195	ケアマネ
	合計		3,008	

今後の進め方について

○今回の「医療・介護連携に関する調査」は、
現場・実務者の「声なき声」であり、しっかりと受け止めていきます。

○まずは、ニーズの高かった

- ・ 各病院などの窓口やルール等の一覧（見える化）
- ・ 患者・利用者情報の取得のための「何らかのツール」

から検討を始めます。

○このため、

- ・ 「各病院の窓口や独自ルール等の調査・公表」
 - ・ 「各病院でどんな情報が必要なのかの調査」
- 「現状調査」

をしていきたいと考えています。

どうして「医療・介護連携プロジェクト」なのか？

- 小規模市町村や中核市レベルでは、自治体レベルの課題・目標を共有し、共通の取組がしやすい環境にある（現にどんどん取組を進めている）。
- 一方、本市では、市全体で揃った取組みを進めることは容易ではない（人口、面積、医療・介護資源ともに規模が大きい）。
- しかしながら、揃って対応すれば、お金もかけず、現場が楽になり、そして患者・利用者により向き合えるのではないか。
- 医療・介護連携プロジェクトをきっかけに、北九州全体で揃って対応するやり方（協調）を、定着させたい。



みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

詳細資料

「医療・介護連携に関する調査結果（速報）」

検索

医療・介護連携に関する調査 速報